

## 第2期大野市総合戦略(素案)に係るパブリックコメントの意見について

募集期間 令和3年1月12日(火)から1月26日(火)までの15日間

意見提出状況 提出意見:9件、提出者:3人、提出方法:書面2件・電子メール1件

番号	該当箇所	意見の内容	【案】市の考え方	修正
1	p.2 (4) 目指すべき将来像	<p>将来目標人口のみが記載されていますが、現時点での人口は何人なのか、また2025年、2030年、2045年それぞれにおける国が推計した人口は何人なのかを記載しないと何を目標に取り組みを進めていくのか、自分たちは何をすべきなのかがハッキリしないと思います。</p> <p>(参考)国立社会保障・人口問題研究所による推計値 令和2年(2020)で大野市の人口30,829人だが、現状はどうか。福井県の推計など近似値で比較できる数値を記入してはどうか。さらに、令和7年(2025)は28,568人、令和12年(2030)は26,323人、令和27年(2045)は19,743人と、推計人口が示されている中、どれだけ増やす(減少幅を抑制する)のかをしっかりと記入しないと伝わらない。</p>	<p>現時点の人口として、福井県の推計人口による令和2年10月1日現在の人口を追加します。</p> <p>また、大野市人口ビジョンにある平成27年までの国勢調査を基にした国立社会保障・人口問題研究所による2025年、2030年、2045年の推計値と目標人口とを明記した表を追加します。</p>	あり

番号	該当箇所	意見の内容	【案】市の考え方	修正
2	p.10 観光業、KPI	<p>今回、大野市として観光を生業とする「観光業」を位置付けています。観光業はすそ野が広い分野であり、農業・林業を基幹産業とする本市にとって、大事な視点です。併せて、中部縦貫自動車道など社会資本の整備を最大限生かす上でも官民が連携して積極的に進めることで、特に若い世代の雇用増加を目指すべきと考えます。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、人の移動に制限がかかる中、道の駅「越前おおの荒島の郷」が4月に開駅となります。指定管理者のNEXCO中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋株式会社やモンベルの力を借りて、地元業者との連携による「稼ぐ力」の向上が期待されますが、4月22日(木曜日)の開駅の日およびその週末には、大野市内のアウトドアイベントや景観活かした取り組みを一同に集めた企画とPRが求められます。</p> <p>その観点からも、中心市街地に点在する観光資源を生かす取り組み、越前大野城をはじめとしたまちなか観光においては、株式会社平成大野屋が中心となり、まちなかエリアのプレイヤーとの連携による観光地域づくりを進め、道の駅「越前おおの荒島の郷」や道の駅「九頭竜」、六呂師高原などエリアごとの魅力アップに取り組む事業者とともに誘客を図る取り組みを期待します。</p> <p>今回の重要業績評価指標(KPI)に観光消費額(日帰り観光客1人当たりの消費額)が掲げられていますが、大野市観光戦略ビジョンの数値目標(令和3年度目標)と同額を令和7年度に達成する目標となっており、単なる先送りでは観光業の推進はできません。達成に向けたビジョンを共有して取り組む必要があります。これまでの課題に対する取り組みの評価、今後のビジョンを、市長が掲げる高速交通アクションプログラムの改訂や観光戦略ビジョンの改訂の中で示し、いかにして観光消費額を上げていくのか、短期・中期ビジョンを示してほしいです。</p>	<p>本市は、中部縦貫自動車道県内全線開通および北陸新幹線福井・敦賀開業を見据え、4月22日開駅を予定している道の駅「越前おおの荒島の郷」を起点としたまちなかへの誘客、六呂師高原や和泉地区などの各エリアの魅力向上に向けた観光施策に取り組んでいます。</p> <p>観光消費の拡大を図っていくためには、観光入込客の増加に向けた取り組みのほか、市内での滞在時間の延長や各観光地・観光施設を線や面でつないでいく取り組みの推進などが必要になってくると考えます。</p> <p>観光業は、農業や林業、商工業のそれぞれの地域資源を観光資源として発掘や磨き上げをしながら、ターゲットに合わせて観光PRを行い、誘客を図り、地域経済圏の外から消費を促すことであると考えます。</p> <p>今後は、地域の宝を地域が活性化する力に変えていけるよう様々な施策を検討するとともに、短期・中期のビジョンの策定も視野に入れながら観光業やブランド化などに関する計画の策定を進めていきたいと考えます。</p>	なし

番号	該当箇所	意見の内容	【案】市の考え方	修正
3	p.12～13 (2)新しいひとの流れをつくる	<p>これまでの総合戦略において「(2)新しいひとの流れをつくる」は観光を中心とした交流人口の拡大を中心に据えていましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、東京一極集中による感染拡大懸念やテレワーク等新たな日常の実現による地方回帰が進む傾向がみられることから、第2期戦略では移住定住の増加を位置付けています。また、「(4)時代に合った活力ある地域をつくり、地域と地域を連携する」中でも多様な人材を確保しつつ活力ある地域づくりを掲げています。</p> <p>高齢者の増加とともに若い世代の減少がそのまま続くと、自治会や団体の活動力は低下します。また地域の空き家が増え、老朽化することによる支障も出てきます。</p> <p>国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)の理念を取り入れながら、持続可能なまちづくりに取り組んでいくためにも、各地域における地域づくりに移住促進と定住支援を位置付けて、公民館を中心とした地域づくりを進めてほしいと思います。そのための数値目標設定も単に検討会の開催ではなく、具体的に動く自治会数を目標とするなど、再検討をお願いします。</p> <p>具体的には、移住者、特に若者をやさしく受け入れる風土づくり・ルールの変更は地域住民自らが、住み続けるための住宅改修や上下水道の接続、業種ごとの求人情報の提供などは行政が行い、それらをセットにして発信する。移住受け入れに向けた現地確認の際は、公民館が全力でサポートし、地域内人口の増加に向けて取り組むことが考えられます。そういった施策を明確に位置付けてほしいです。</p>	<p>高齢化や後継者不足といった課題を抱える自治会を支えていくためには公民館単位で、共助機能を維持することを目的として地域づくりに取り組んでいくことも必要となってきます。</p> <p>公民館単位で地域づくりを進めるためには、地区ごとに状況が異なるため、行政側から仕組みを押し付けるのではなく、住民同士や住民と行政との話し合いの中で解決策を見つけていくことが重要と考えます。</p> <p>そのため、地域づくりに関する数値目標指標の内容を「地域課題解決に向けた住民主体の検討会を開催した地区」の数に設定しました。</p> <p>話し合いの中で生まれてきた地域づくりに関する具体的なアイデアなどについては、その実現に向けた取り組みに対して公民館が支援していきたいと考えます。</p> <p>また、空き家の利活用や移住者の受け入れに積極的な自治会を引き続き支援し、公民館とも連携して取り組んでいきたいと考えます。</p>	なし

番号	該当箇所	意見の内容	【案】市の考え方	修正
4	p.23 基本的方向 3:地域活性化と次世代継承の促進	<p>世代間の交流や公民館の役割、文化芸術の振興などが掲げられていますが、重要業績評価指標(KPI)が「公民館利用回数(市民一人当たりの年間公民館利用回数)」として設定されています。この回数を増やして目標が達成された場合、人口減少対策にどう結び付くのか分かりません。</p> <p>地域の活性化とは何なのか、大野市の文化芸術を次世代に継承するために何が課題で何が足りないのか。自治会や団体の活動力が低下している課題に対し、公民館の果たす役割と求められる公民館活動を今一度見直し、関係人口の創出から移住促進、定住支援につながるための受け皿づくりに力を注いでいただきたいと思います。</p>	<p>人口減少対策には、人口減少に歯止めをかける「積極戦略」と、人口減少に対応するための「調整戦略」を同時に推進することが重要です。</p> <p>調整戦略として、人口減少下で地域を維持するためには、世代間の交流などを通して地域活動を活性化し次世代のリーダーを育成するとともに、伝統文化などの地域の宝を継承していく必要があります。</p> <p>そのためには、まず、地域の拠点である公民館を利用してもらうことが、学びや交流の機会の増加、ひいては地域の活性化に向けた重要なきっかけになると考えます。</p> <p>一方で、積極戦略としては、施策の方向性「新しい人の流れをつくる」にもあるように、様々な施策の実施により関係人口の創出と拡大を図るとともに、移住者の受け入れ環境の整備に、市民とともに取り組んでいきます。</p>	なし

番号	該当箇所	意見の内容	【案】市の考え方	修正
5	p.18 基本目標Ⅳ 「くらし環境」	<p>1.大野市は冬の雪対策をしっかりと、高齢者も若者も住みやすいように大野市に住み美味しい水と空気に感謝しながら利用しております。ことに美味しい地下水はかけがいのない市の貴重な財産で宝物です。地下水が量・質共に誇りを持って子々孫々伝えられるように願っております。水を取り巻く自然の要因は全国でも恵まれています。しかし、行き過ぎた治水・利水の国の政策で特に河川環境に大きな影響を与え、河川の水がなくなるとともに湧水は枯渇し、地下水位は変動しながら下降しています。別添 グラフ参照。</p> <p>昭和30年代には、まだ湧水系の川に雪を捨てるとたちどころに消えて詰まることなく流れました。大野市は、全国でも有数の豪雪地帯でこの冬も市街地で180cmぐらいになり連日、市民も除雪に追われました。屋並に沿った水路に加え、その上流雪溝が設けられましたが水量がなく直ぐ詰まります。大野市は冬の雪対策が一番の問題です。市街地の住宅の密集地にはしっかりと水を流してください。除雪車が雪を両側に開けた雪を一生懸命に始末する市民のことを考えてください。国道8号線の車の渋滞ばかりが報道されていますが、水に恵まれた大野市の水路に水が全くないのは問題です。真名川・九頭竜川にはかつて豊かな水が流れ、いろいろな魚や水草が生え生態系も景観も素晴らしかったです。</p> <p>2.地下水の法的な位置づけ 河川と町中の水路に水量を増量し確保・水循環基本法の活用の前に市の職員様・議員様の学習が不可欠。水循環基本法は大野市にとってとても重要で追い風になっております。水利権や河川法の改正。 法律を活かすのは、霞が関に聞いたり、座視したりしているのではなく、基本法の精神や理念を理解し、損なわれた水循環を本来の姿に戻すことをご承知のこと。</p> <p>3.大野市は、市民と行政の連携に欠けていることが問題であると聞いております。計画の段階から市民も入り同じテーブルで意見や情報を共有し問題の解決に努めてほしい、市民だけで行動、行政だけが思っても効果は上がらないとことをある講座で伺いました。</p> <p>4.環境教育と学びの場を 以前、「明倫館環境学科」があり市の計画で河川や水路の実地見学に参加しました。現場を見る・知ることは一番大切です。貸し切りバスで金沢の手取り川や水路など見学。国と地方自治体の連携と意思の交流も肝要です。</p> <p>5.水循環基本法のできた背景や歴史を学ぶこと 一番大野市にとって重要です。</p>	<p>ご意見として承ります。</p> <p>本市の誇りである水を含めた自然環境の保全や活用は、地方創生・人口減少対策にもつながるとの考えから、施策の方向性「時代に合った活力ある地域をつくり、地域と地域を連携する」の中に位置付けています。</p> <p>また、本市のさらなる水環境の健全化に向けた総合的な計画として、大野市水循環基本計画の策定にも取り組んでいます。市内の河川などの水量や地下水位についての課題と、それらに関する啓発活動や解決のための具体的な取り組みなどは、この大野市水循環基本計画に基づき検討、実施していきます。</p>	なし

番号	該当箇所	意見の内容	【案】市の考え方	修正
6	その他	<p>パブリックコメントも参考資料を希望者には提供してほしいです。パソコンで画面とにらめっこでは、疲れ、考えも消えてしまいます。</p> <p>水の問題のパブコメも、年末年始の、それも雪であわただしい中、2週間では短かすぎます。持ち出し禁止でなく希望者に配布されてはと思います。が、そんなに経費が要るのでしょうか。</p> <p>審議会の傍聴希望者など来場者にも資料配布はそんなに難しいことでしょうか。</p> <p>難聴でも視力がよくても資料は理解の手助けになります。</p>	<p>ご意見として承ります。</p> <p>パブリックコメントは、各種計画の原案を広く公表し、さまざまな方からご意見をいただけるよう、紙媒体とインターネットを活用して実施しています。</p> <p>市役所などに設置している紙媒体の資料は持出禁止とさせていただいておりますが、ご自宅などでゆっくりとご覧になりたい場合は、担当課にお申し付けいただければ貸出用の資料をお渡しております。</p> <p>また、年末年始を挟む場合は2週間より長い期間を設けるなどの配慮もしております。</p> <p>今後とも、より良い制度の運用に努めていきます。</p>	なし
7	p.5.6 施策の方向性：地域経済を活性化し、安定した雇用を創出する	<p>六呂師の星空など、大野の豊かな自然を生かした環境事業をうまく機能させていくといいと私も思います。グラススキーのような中途半端なものではなく、星空が見れるイベント、宿泊施設、おいしい料理、おみやげ、周囲の施設、旅行で来る人が癒しを求め、非日常を求めてくると思うので、その欲求を満たす空間、環境づくりを市民、企業みんなが進めていけるといいと思います。道の駅は星空と一体で生かしていくといいのではないのでしょうか。</p>	<p>ご意見として承ります。</p> <p>これまでも「天空の城 越前大野城」や「日本一きれいな星空」などの地域資源を活用し、観光誘客に取り組んできました。今後は、道の駅「越前おおの 荒島の郷(さと)」開駅や中部縦貫自動車道県内全線開通の好機を最大限に活用し、関係する市民や団体、企業などと連携しながら、さらなる観光誘客に取り組んでいきます。</p>	なし
8	p.5.6 施策の方向性：時代に合った活力ある地域をつくり、地域と地域を連携する(循環型社会の形成)	<p>大野でもゴミの分別(特にプラスチック)をしっかり義務化すべきだと思う。他の市町より環境への意識が低いと思うからです。</p>	<p>ご意見として承ります。</p> <p>なお、ご意見と関連して、施策の方向性「時代に合った活力ある地域をつくり、地域と地域を連携する」の「基本的方向2：循環型社会の形成」のうち、「自然環境・ごみ」について、第六次大野市総合計画前期基本計画と整合性を図り、脱炭素社会の実現に向けた取り組みをはじめとして、より実効的な取り組みとなるよう、施策の記載を修正します。</p>	あり

番号	該当箇所	意見の内容	【案】市の考え方	修正
9	p.5,6 施策の方向性:時代に合った活力ある地域をつくり、地域と地域を連携する(地域活性化と時勢代継承の促進)	公民館がコミュニティづくりの中心になるのは賛成です。学校再編が進められる中、もう学校の子ども中心に地域の行事、伝統を守っていくのには限界がきていると思います。住民の意識を変えていく一歩だと思います。	ご意見として承ります。  第2期大野市総合戦略だけでなく、市の最上位計画である第六次大野市総合計画においても、公民館を中心とした地域づくりを重要な施策の一つとして取り組んでいきます。	なし